

事業所名

みんなの森

## 支援プログラム（児童発達支援・放課後等デイサービス）

令和8年

3月

16日

法人（事業所）理念	～みんなの森があつてよかった。そう言ってもらえる場所でありたい～ みんなの森に関わるすべての方（利用者さんとそのご家族、近隣の皆様、関係機関、その他関係する方々）から、「みんなの森があつてよかった」と言ってもらえるよう活動しています。 また、障がいの有無に関わらず、自分らしく伸びやかに生きられる地域社会の想像を目指しています。						
支援方針	・居場所の提供 家以外で自分らしくリラックスして過ごせる環境を大切にしています。その中で、本人の好きなことや興味のあることを活動に取り入れ、能動的な遊びを提供します。 ・経験の場の提供 より多くのモノを見て、触れ、感じることを大切にしています。興味関心の幅を広げ、自分を知るきっかけ作りをしています。また、集団で過ごすためのルールを学ぶ場でもあります。 ・幅広い年齢層との関わりの提供 0歳～18歳が利用施設という特性を活かし、他者を見て真似る、手本になる、お世話をしあえるなど、お互いが作用しながら成長できる環境を提供します。						
営業時間	9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	きめ細やか観察により、心身の異常に気づけるようにするなど健康状態の把握に努めます。 本人の発達段階と生活環境を把握し、食事、排泄、衣服の着脱、清潔など基本的な生活スキルが身につけられるように繰り返しの関りで定着できるようにします。 咀嚼や嚥下、口腔ケア、姿勢保持、生活習慣など第三者の視点からアドバイスを行い、健康維持に努められるようにします。 調理活動を通して、食事を作るスキルの向上や食に関する興味関心を広げられるようにします。					
	運動・感覚	外遊びや散歩など戸外活動を積極的に取り入れ身体作りを行います。 製作活動など指先を使う活動を行い、協調運動がスムーズに行えるように関わります。 静かな部屋を提供したり、苦手な場面を避けられる提案を行ったりし、感覚過敏に配慮します。					
	認知・行動	思考の癖や環境からの情報収集の癖などを把握し、それに配慮した関りを提供し、本人も自覚できるように関わります。 他者と意見が違いで食い違った際などに職員が間に入り、お互いの思いを代弁し、互いの違いを受け入れ、視点が広がるように関わります。 製作などをとおし1つのものを作り上げる喜びや達成感を味わえるような活動を提供します。					
	言語 コミュニケーション	遊びの中で他者を意識し、他者と関わることで楽しいと感じられるように環境を整えます。 お互いの気持ちを職員が代弁し、相手の気持ちや自分との違いを受け入れられるように関わります。 特性を見極め個々に合った表現の手段を増やせるようにします。					
	人間関係 社会性	楽しい遊びや活動をおとして職員や他者に親近感を得られるようにします。 施設外に積極的に出て行き、地域の方や外出先での関りの中で社会との繋がりを感じたり、活動の幅を広げたりします。 集団で過ごすためのルールを意識してもらうことで、他者を意識できるように関わります。					
家族支援	送り迎えの際に積極的にコミュニケーションをとり、職員を身近に感じてもらい、親近感を覚えてもらえるようにします。 日々の困りごとなどをうかがい、対応策を考えたり、情報提供を行ったりします。 職員が気づいたことなどをご家族に伝え、より良くなる方法を一緒に考えていきます。			移行支援		学校や他施設などと連携し、本人にとって一番いい選択ができるように情報提供などを行っていきます。	
地域支援・地域連携	地域自立支援協議会への参加、地域の相談支援との連携など、地域資源と密な連携をとっていきます。			職員の質の向上		施設内で定期的に支援の振り返り、より良い関りを目指します。 施設外への研修も取り入れ、知識の向上を目指します。	
主な行事等	地域への感謝を伝える「森のまつり」 高校の卒業生と行く卒業旅行 児童発達支援の方を対象にした親子遠足						